

原発から出た高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する説明会が全国各地で開催されています



科学的特性マップ (一部) 図1

日本では、原発で使い終えた燃料は再処理され、取り出されたウランやプルトニウムを燃料として再利用する方針です。再処理の過程で残る放射性廃棄物をガラスで固化したものが、高レベル放射性廃棄物です。地層処分しても、1000年間は人間から隔離する必要があります。と言われています。

高レベル放射性廃棄物は原発がある限り、生み出され増え続けるものです。現在、NUMOによる地層処分についての説明会「科学的特性マップに関する対話型全国説明会」が、全国各地で開催されています。

九州エリアでは、2019年2月5日に佐賀県唐津市で、3月9日に福岡県北九州市で説明会が行われました。参加者は、唐津市は20人程、北九州市は30人程、主催者ほども10人程の小規模なものでした。

説明会ではまず、参加者は7、10人ずつグループに分かれます。担当者から地層処分の仕組みや、地質や環境調査のプロセスなどについて、映像を交えながら説明がありました。その後、各グループに担当者が同席し、参加した市民との質疑応答がありました。質疑の内容は、地層処分を中心とした高レベル

放射性廃棄物の最終処分に「科学的特性マップ」(図1)を公表しました。

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

放射線管理の観点から、高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題意識(抜粋)

費用は？

Q: 最終処分費用の3.8兆円はどこが負担するのか。

A: 原子力発電所等の運転実績に応じた金額が毎年電力会社等からNUMOへ拠出されている。その原資は、電気料金の一部として利用者が負担している。

処分地は？

Q: 日本は地震が多く、地図に載っていない活断層もあると思うが、適地はあるのか。

A: 地質の安定性は、日本周辺のプレートの動きと関連していると考えられ、現在その方向や速さは数百万年からほとんど変化がないため、今後も10万年程度はほとんど変化しないと想定している。ただし、実際に個別の地域にて適性があるかどうかは、詳細な処分地選定調査を実施する。

Q&Aより (NUMOが公開している資料より抜粋)



一般社団法人
グリーンコープ・ワーカーズ・
コレクティブ連合会
理事 舟木 由子さん

私が、グリーンコープで、ワーカーズの仕事を始めてたくさんの人との出会いがありました。働き始めた職場には、今でも大切な仲間が居ます。苦しい時は、優しく手を差し伸べてくれて、楽しいことをみんなで喜び合える仲間です。

今までの人生の中で沢山の人達との出会いがありましたが、出会った人と会話をした言葉は私にとっての財産です。今でも新しい出会いがありその度に刺激を受けています。

まだまだ、これからの出会いを楽しみに、時々行く山登りと脳トレに励んで自分磨きをして、人生百年時代に向けて、体が続く限り、ワーカーズで仕事を続けていきたいと思っています。

地域住民として参加した組合員の問題意識(抜粋)

今の議論では開示性が十分にあるとは言えないのでは？

今ある放射性廃棄物はどんな方法であれ処分せざるを得ないので、対策を準備することは必要。議論は公開性をもって行われることを前提として、そのプロセスやリスク対応や管理責任について、外部の研究者たちによってリスク管理の根拠等の検証が可能となるような情報提供(開示)が重要と思う。

原発推進が前提のようで不安

毎日出続けている核のゴミ問題を論ぜず、地層処分のことだけに特化した説明会はとても違和感がある。もっと国民みんなで検討するべきことではないか。

また今回の説明会は「原発の是非は話題にしない」となっていた。原発をすすめようとする国のあり方に、本当にこのまま国民が黙っていたら大変なことになると危機感が増した。

処分地の決定については国民一人ひとりが考えることが大切

計画が始まってから10年経っているのに、多くの国民が意識しているとは思えない。しかも処分地の最終決定権はその地域の知事や市町村長で、住民との意見が違っても、「その人を選んだのはその住民だ」ときっぱり言われていた。

まずは、一人ひとりがいろんなことに関心を持ち、知ること。そして自分で考えていくことが大切だと思う。

参加者の意見・要望は活かされるの？

全国を回り、説明責任を果たした既成事実をつくるためのものだという印象を受けた。矛盾と不安がてんこ盛りで、質問をしても疑念が深まるばかりだった。参加者の意見・要望がどこにもつないでもらえないのは残念だ。

※1 日本の場合、原発から出た高レベル放射性廃棄物を、地下300mより深い岩盤に埋設することで、長期にわたり閉じ込める処分方法

※2 ニューモ NUMO (原子力発電環境整備機構)とは Nuclear Waste Management Organization of Japan
地層処分の事業を行うため、2000年10月、経済産業大臣の認可法人として設立。地層処分に関する学習会や講演会など、さまざまな取り組みを行っており、その一つに「科学的特性マップに関する対話型説明会」がある。